



「自宅にはエアコンを

最近地球温暖化が進み、世界的にも暑さが増え、日本の夏も例外ではありません。「最近なぜかだるい」「食欲がない」とお話しされるご年配の方が多く、ときに1日の

梅雨明け以降の急な猛暑が続いた日のことでした。



松原 清二 医師

在宅療養支援診療所「まつばらホームクリニック」院長
総合内科専門医・循環器内科医
・日本循環器学会専門医
・日本内科学会認定医
・認知症専門医
・認知症サポート医

熱中症として点滴加療することもあります。

そんななか、6月末に、日本テレビの報道番組「news zero」

の取材を受けました。訪問診療における高齢者の熱中症の実情を知りたい

とのことで、私ももちろん全国に注意喚起してもらうのに良いかなと思

い、同行取材をしていたことができました。

たが、まるで凶ったかの

ように、高齢者の危険さが伝わる事例が続きました。

一例目は暖房を入れ、ケットを羽織っている80代女性で、前日から体の

変調を訴えているケース。二例目はうだるような暑さのなかで毛布を羽

織り、食欲がないという方。熱中症の処置として

補液治療を行いました。

いずれも寒いと感じる方々で、我々は往診の度に室温を確認し、冷房を入れたりしました。

こうなる原因は、加齢に伴う体感温度のズレと思われる。翌日のワイドショー「ミヤネ屋」

にも取材映像が使われて

いましたが、出演のコメントが意外に知られていな

いんだなと思いました。当院と連携している練馬区にある病院の事務長

も番組を見てくれていて、練馬区も夏場になると熱中症でバタバタと

倒れる方が多く、入院が大変増えた時期があります。

てみたら区が高齢者住宅に訪問し、室温調整して

いたからでした」と話してくれました。

室温管理が出来る

病院や施設でも、まず熱中症になる方はいませ

ん。室温は26〜27度程度にして、体感で寒いと感

を羽織ることをお勧めします。エアコンを使って、命を守る対策をしてくだ

さい。今回のテレビ取材の様子子は当院ホームページにも載せておく予定です

で、ご参考になればと思います。

【まつばらホームクリニック】
 ☎ 042-439-1250
 西東京市東町 4-14-18-2F
 (訪問中のため不在が多い)
 ■電話対応: 午前 9:00 ~ 午後 6:00
 ■定休日: 土日 (祝日は診療)
 ■訪問地域: 西東京市、奥久留米、新座、練馬の一部
 まつばらホームクリニック 検索